

東部支部長就任挨拶

このたび、東部支部長に就任いたしました日本海事協会の有馬俊朗です。

1982年に学生会員として日本造船学会に入会して以来、学会には各種お世話になってきましたし、委員会活動等でもいろいろと勉強させて頂きました。これらを糧として、船級規則開発を中心として、日本に本部を置く国際船級協会の一員として日々、産学官公の皆様のお役に立てるよう頑張っております。

さて、2年前に企画担当理事となり、World NAOE Forum 2022開催に向けて前東部支部長の高木健先生他と一緒に取り組みました。また、日本造船工業会の絶大なご支援、ご尽力の下、産学連携研究開発ストラテジー委員会の委員長を務め、本年3月末に造船業界の技術開発戦略（概要）（案）を取り纏めました。この中には、日本造船業のビジョン、ビジョン実現のための技術戦略、今後の技術開発課題及びマッピング等が含まれています。これらは近々に公表できる見込みです。

これらの活動を通して改めて認識したことは、現在は100年に一度レベルの大変革期にあるということです。具体的には3つの大きな変革（トランスフォーメーション）が同時に起きている時代にいると思います。一つ目は、デジタルトランスフォーメーション（DX）というキーワードに代表されるデジタル技術の急速な発展と社会の構造変化です。二つ目は、ゼロエミッションの実現が世界共通の社会課題となっており、環境対策について地球規模の変革（GX）が進行中ということです。三つ目はSDGs、ESG投資の観点からも必須となっている持続性を担保するための変革（SX）です。何れの変革実現のためには様々なイノベーションが必要となっています。また、そのスピードが極めて速いという点も大きな特徴だと思えます。

日本船舶海洋工学会の重要テーマの一つは、船舶海洋分野に於ける工学の普及・発展だと理解しています。この工学が社会の変革に必須であり、社会実装が最重要であることは言を俟ちませんが、従来の学問分野か活動の枠組み・境界を超えていく必要があると考えています。例えば、他の学術分野との連携、産官公との連携を大幅に強化する等です。加えて、春の学会講演会のように実際の活動地域を拡大すること等が、大変革の時代に必須だと考えています。

東部支部の活動も、上記を念頭に進めたいと考えておりますので、皆様におかれましても是非ご理解とご協力の程、宜しく願いいたします。



公益社団法人日本船舶海洋工学会

東部支部長 有馬 俊朗